

50年の歴史を誇る、日生劇場。

バレエにミュージカル、クラシック音楽のコンサート。華やかな公演が行われる劇場のなかでも日生劇場といえば、馴染みのある方も多いのではないのでしょうか。今回取材に訪れたのは、小学生を対象とするミュージカル公演『ニッセイ名作劇場』を50年にわたり開催し、現在も中高生を対象に『ニッセイ名作鑑賞教室』を展開する日生劇場の舞台裏です。取材にご参加いただいたのは、この春、定年退職された畠山保彦さんと京子さんご夫妻。長年小学校の教諭を務められた保彦さんは、何度も日生劇場へ生徒を引率して来場した経験もあり、その舞台裏を見ることができるとあって興味津々。幼稚園の教諭だった京子さんは、子供の頃、竣工したばかりの日生劇場へ訪れて以来、実に50年ぶりの訪問です。



取材当日、公演の谷間で貸し切り状態。そんな貴重な機会に館内を特別にご案内くださったのは、劇場部長の能崎純郎さんです。ガラス張りの入り口を入ると、まるでギリシャ建築のような、

柱が建ち、客席へ登る大階段には、赤い絨毯が敷かれ、舞台への期待が高まる格式の高い雰囲気にも包まれます。この劇場の設計は、昭和を代表する建築家、村野藤吾氏によるもの。遠近法を効果的に使って設計された



写真上から：出演者やスタッフが行き来する舞台下の通路に行く。／舞台袖には、公演の安全と成功を祈願する小さな神棚が設置されている。／「小迫」と書いて「コゼリ」と読む。／楽屋の化粧前（鏡台）からゴミ箱に至るまで館内のインテリアも全て建築家・村野藤吾氏の設計。

イントランスの柱のエピソードや、全席から舞台を見やすいよう工夫された客席椅子の骨組みの話、ゴミ箱など全てのインテリアデザインは設計当時のものをそのまま維持するよう補修を繰り返しているといった劇場秘話をお伺いし、「観劇しに来ている時には知らなかった話でとても興味深いです」と、驚きの表情を隠せないお二人。子供たちに本物の空間で本物の舞台を、という日生劇場のこだわりを改めて目の当たりにし、感激されている様子でした。



この床が開いてセリが上がりります



ここが奈落。舞台までの高さが、なんと6mもあるんですよ



舞台に到着したらまずはこの『着到板』を裏返すんです

「大きな仕掛けや重量のあるセットを操作する舞台は、常に危険と隣合わせ。ですから舞台の掃除も技術スタッフが自ら行って、細部まで気を配って点検しているんですよ」と黒崎さん。吊り物を昇降したり、奈落から小迫に乗って役者が登場したりと、華やかな公演の裏側では、劇場を熟知しているスタッフの安全策で舞台を支えているのです。「現役を引退した今も地域の子供たちに演劇指導のボランティアを務めているので、舞台裏のお話はとても刺激的で参考になります」と保彦さん。「一つの舞台を作り上げるために、どれだけの労力が注がれているかを知って、本当に感激しました」と語ってくださった京子さん。まるで「舞台づくり」という演目を堪能したかのような充足感に満たされて、劇場を後にしました。

# Expedition members

今回の舞台裏探検隊員はこちら



## ◎今回の隊員

畠山保彦さん 任意継続組員  
小学校在職中は日生劇場へ生徒を引率してきた経験があるという保彦さん。「子供たちと一緒に来た時は事故のないよう常に緊張していましたが、今日は興味深く舞台裏を見学することができて、心から楽しめました」

畠山京子さん 任意継続組員  
日生劇場は約50年ぶりという京子さん。「テレビの画面を通して目にしたことはあっても、本物の空間で現場の方にお話を伺えたことは本当に貴重な経験でした」

## 協力：日生劇場

建築家、村野藤吾氏設計で1963年竣工。現在は中高生を対象に『ニッセイ名作鑑賞教室』を展開。本格的なオペラやバレエなど、世界の名作に触れられる。2016年度募集演目は、オペラ『セビリアの理髪師』6月、バレエ『眠れる森の美女』7月、オペラ『後宮からの逃走』11月。  
日生劇場 公式HP  
<http://nissaytheatre.or.jp>



## 次回の参加者募集中!

今回は「メディア」の舞台裏を探検します。

訪問先は関東近郊を予定しています。日々の情報発信を大勢のスタッフがその裏で支えています。ぜひご応募ください!

応募方法：差込の「かがやき」編集担当宛はがきにある「大人の社会見学ルポへの参加希望」の欄にチェックを入れてお申し込みください。

応募締切：平成27年10月16日(金) 必着

取材時期：10月下旬～11月上旬



大人の社会見学ルポ

# 「日生劇場の舞台裏」

## 舞台裏探検隊が行く!

# the Backstage Tour.

取材/撮影：スクーデリア

いよいよ、憧れの舞台裏へ。



ご案内します

劇場の裏側へ